

令和5年度 明石小学校 外部評価報告書

評価委員：守本委員 中川委員 石井委員 箱守委員 牛嶋委員 桑原委員 須田委員
矢田委員

報告書作成者：守本 利雄

評価時期 令和6年2月13日

1 重点目標の評価

【重点目標1について】

○低学年から高学年まで、様々な場面でタブレットを工夫して活用し、非常に効果的な結果が得られている。また、体験的な授業が多く展開されており、児童が多様な経験を積むことができていることが分かる。今後もタブレットを活用した授業や体験授業など、有効な方法を継続して導入してほしい。

【重点目標2について】

- 朝の登下校の様子や児童のあいさつ運動を観察すると、全体的に良好な状況である。外部の人にも自発的な挨拶ができるよう、学校と家庭の両方で指導や啓発を行う取り組みを今後も継続してほしい。
- 小さなルールを守ることが、大きな規則を守る基盤となることを認識し、学校、保護者、地域が協力して子どもたちの安全を確保するため、規則遵守の指導を継続してほしい。

【重点目標3について】

○短なわ旬間や長なわ旬間、体力向上旬間など、体力向上に向けた取り組みが効果的であった。今後も、授業と学校生活の各場面で、体力向上を促進する活動を継続的に展開し、積極的に推進してほしい。

2 今後の改善に向けた意見

○今回の学校評価回答率が低いことが報告された。回答率の低下の一因として、データを収集する手間が挙げられる。メールでの受け取りではデータを探す手間がかかり、回答が怠られる可能性がある。そのため、QRコードを利用することで、直接読み取りや入力が可能となるため、今後、利用を検討してみてはどうか。

3 その他の意見

- 2学期の展覧会では、各作品や展示に工夫やこだわりが見られ、素晴らしい出来栄であった。また、はねつき大会では、6年生の児童が賞を受賞し、その喜びを嬉しそうに報告していた。大谷選手のグローブ贈呈式では、6年生が体を楽しんで動かす様子が見受けられた。明石小学校の児童が知力と体力の両面で成長していることを実感し、喜ばしく思う。
- 明石小学校では、現在インフルエンザの状況が安定している。この安定した状況は、学級閉鎖などの早期対応が功を奏した結果だと考えている。一方で、新型コロナウイルス感染症に関しては、新たな段階に入ったことから、引き続き初期対応を適切に行ってほしい。

- 小学校と幼稚園が協力し、交流していることが明らかになった。両校が連携して活動することで、併設校の利点を最大限に活かしていることに喜びを感じる。
- 縦割りの活動の重要性を強く感じる。上級生と下級生が交流する経験が不足している子どもたちには、将来に影響を与える可能性があると考え。学校で異学年の交流が活発化していることは素晴らしいことだ。地域でも、さまざまな子どもたちが交流できる環境づくりを進めていきたい。
- 最近、課外スポーツ活動で低学年児童のトラブルが発生した。学校で他人を嫌がることの大切さを伝える取り組みを継続してほしい。また、現在のコロナ禍の影響で、低学年と高学年の交流機会が減っている。異年齢の交流によって、上級生が下級生の模範となったり、下級生が上級生のプレーを見て憧れたりすることができるため、縦割りの活動を大切にしてほしい。
- マンションのエントランスでの児童の過ごし方に課題があるようだ。保護者と連携し、学校でも指導を行うことが望ましい。
- 下校時の横断歩道や通路での歩行マナーについて、一部問題があると感じられた。マナー意識を向上させるために、学校での継続的な指導を期待する。
- 生命尊重の観点から発達段階に応じて、がん教育や性教育を教育活動に入れてほしい。

* 3月末に各学校のホームページで公表していきます。